

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年1月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

目次

- I 管内の農業・農村の主な動き
- II 主な普及指導活動等の取組
 - 1 総合プロジェクトに関する普及活動
 - （1）北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成
 - （2）北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり
 - （3）地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築
 - （4）農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成
 - 2 専門プロジェクトに関する普及活動
 - （1）高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成
 - （2）生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成
 - （3）産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成
- III プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年1月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

I 管内の農業・農村の主な動き

（1）第68回宮崎日日新聞農業技術賞贈呈式が開催

16日、宮日会館にて、第68回宮崎日日新聞農業技術賞贈呈式が開催されました。

県内8地域から個人1件、団体5件、法人2件が受賞しました。管内からは、有限会社エムケイ商事が、法人の複合経営部門で受賞されました。式には黒木会長が出席され賞状、記念品の贈呈を受けました。

受賞者挨拶では、機械化による更なる作業の効率化や堆肥の利活用による循環型農業を目指したいと今後の目標について話をされました。



（受賞者記念撮影の様子）

（2）農業外国人材向け機械作業実演講習会が開催

21日（水）、県担い手・農地対策課の主催で、県総合農業試験場畑作園芸支場にて管内の技能実習生等12名が参加し開催されました。

農作業安全対策の基礎を室内で学んだあと、県農業機械士会の農業者を講師に、刈払機の安全使用及びトラクター操作時の安全対策を現地研修にて学修しました。

参加者は、まずは安全第一を念頭に置いて、農業機械の安全使用について多くのことを学ぶことができました。



（刈払機の取扱について講習）

（3）担い手に係る地域との意見交換の開催

28日、県の担い手農地対策課が主催し、市町、JA、普及センター等を交えた意見交換会が開催されました。

会では、令和8年度の新規就農や担い手関連の事業についての説明を受けたほか、意見交換では、都城市が開設に向けて準備を進めている就農希望者向けのウェブサイトや、JA研修事業の実施状況、中古ハウス等の経営資源承継に向けた取組などについて説明し、担い手農地対策課が主管する事業の活用や取組との連携について協議しました。

(4) 大豆種子農産物検査

29日、JAみやざき都城地区本部の石山倉庫で、大豆の農産物検査が行われました。管内では、「フクユタカ」、「キヨミドリ」の2品種の種子を生産しています。令和7年度も、開花期以降に高温が続き、厳しい状況でしたが、必要数量を確保することができました。



(検査を受ける種子)

(5) 都城市花き振興会視察研修を開催

30日、有限会社南原農園（鹿児島県薩摩郡さつま町）へ生産者8名を含む14名で視察に伺いました。

代表取締役の南原氏は、就農後に法人化し、ブライダル花材生産を中心とした経営を行っていますが、プリザーブドフラワー事業の立ち上げや建築廃材を活用した薪ボイラーによる温湯暖房への切り替えなど、常に時勢を見据えた事業を展開しています。

今回、生産者からは多くの質問が出ており、今後の生産への刺激を受けた様子でした。



(廃材の燃焼熱による温湯暖房)



(アスパラ系の栽培ほ場)



(出荷調整を説明する南原氏)

II 主な普及指導活動等の取組

1 総合プロジェクトに関する普及活動

(1) 北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成

1) 就農相談を実施

11件（肉用牛繁殖4件、施設（高設）いちご4件、施設きゅうり2件、水稲1件）の就農相談があり、ハウスや牛舎の取得予定や、導入する設備等を検討しながら、就農計画の作成支援を行いました。うち2件については、令和8年度からのJA都城地区本部の研修事業できゅうりの研修を希望しており、研修期間中に気をつけることや研修から営農開始までのスケジュール、認定新規就農者制度や補助事業なども含めて説明しました。

今後も地域の大切な担い手につながるよう継続して支援していきます。

2) 農業経営力強化研修の開催

22日、新規就農者及び新規就農予定者を対象に、農業経営の基礎を学ぶ研修を実施しました。研修には肉用牛繁殖、施設野菜、水稲、露地野菜での就農を予定している5名が出席し、農業簿記等の基礎知識を学びました。新規就農者にとって、初めて聞く内容も多く、これからの経営を行っていく上で、有意義な研修となりました。

3) 経営開始資金審査会

26日、都城市で新規就農者育成総合対策（経営開始資金）受給申請者に対する審査会が行われ、新規就農1年目の農業者1戸（夫婦型）が審査されました。面談では、これまでの就農した経緯や1年間の営農状況を聞き取りました。そして、本人から今後の計画と課題を確認しました。今後も地域の大切な担い手として育つように継続して支援していきます。

(2) 北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり

1) 子牛セリ市場での営農相談窓口設置

13日、子牛セリ市会場に、営農相談コーナーを設置しました。受付会場に訪れる生産者から、牧草の給与内容について相談を受け、飼料分析等の重要性を説明しました。また、県畜産協会と共同で「アニマルウェルフェア」のチラシを配布し、家畜にストレスを与えない適正な飼養管理について周知を行いました。今後も、農業者の多く集まる子牛セリ市で営農相談活動を行っていきます。

2) 関係機関 (NOSAI) と連携した巡回指導

14、16、28 日、NOSAI みやざきの獣医師と連携し、重点対象農家 3 件の巡回指導を行いました。NOSAI 獣医師による超音波装置を用いたフレッシュチェック (分娩後の卵巣等の機能回復確認) や妊娠鑑定等を行い、普及センターからは、ICT 機器の活用方法や良質粗飼料を安定的に給与することの重要性について説明を行いました。今後も関係機関一体となって、生産性向上に向けた支援を行っていきます。



(巡回指導の様子)

3) イタリアンライグラス・エンバク展示ほの生育状況確認

27 日、イタリアンライグラス・エンバク展示ほの生育状況確認を実施しました。初期生育は順調でしたが、その後、雨量が少ないこともあり、生育の停滞や霜による葉先が枯れる症状が確認されました。今後も、引き続き、生育状況を確認し、良質粗飼料生産に向けた肥培管理指導を実施していきます。



(展示ほの様子)

4) 畜産研修会の開催 (NOSAI と共催)

22 日、普及センターで NOSAI と共催の畜産研修会を開催しました。今回の研修会では、飼料・資材コスト等が増加する中、畜産経営における無駄を省くためにできることをテーマに「敷料と堆肥」について普及センターと NOSAI がそれぞれ観点から話をしました。完熟堆肥や敷料サンプルを実際に見て、触れてもらうことで敷料や堆肥の重要性について理解・関心を持ってもらいました。

今後もこのような研修会を通じて、農業者に必要な支援を実施していきます。



(研修会の様子)



(完熟堆肥・敷料の展示)

(3) 地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築

1) キャベツの作業受委託の取組

加工業務用野菜の生産を展開する農業法人と集落営農法人とのキャベツの作業受委託の取組について試行しています。

栽培管理と収穫の作業を集落営農法人が受託し、分業化を進める取組です。

本年は小雨の影響はありましたが、十分な収量も得られ、次年度以降収穫作業の様子も取組を継続する予定で、今後も作業の分業化などの連携した取組を支援していきます。



(収穫作業の様子)

(4) 農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成

1) 畑かん展示ほでの散水

9日～30日にかけて、ほうれんそうのほ場において散水支援を行いました。

1月は降雨日が無かったため、それぞれ10mm～20mmの散水を4回実施しました。

今後生育調査を実施し、結果を基に更なる畑かんのPRに努めます。



(ほうれんそうへの散水)

2) 露地野菜法人の経営改善の実施

14日、管内の露地野菜法人において外部講師と改善内容の協議を行いました。今回の改善では①情報の共有、②整理・整頓の実施、③農作業機械の故障低減の3点に取り組むこととし、具体的な改善方法について確認しました。

2月中旬までに改善を実施することとしているので、継続的に支援を行っていきます。



(機械倉庫での検討)

3) 畑かん営農推進に向けた担当者会の開催

28日に担当者会を開催し、散水器具の導入計画及び推進状況等について共有しました。また、水利用増加に向けてグループワークを実施し、課題及び具体的な方策について協議しました。今回出された意見を参考に今後も関係機関で協力しながら、畑かん営農の推進に取り組めます。



(グループワークによる協議)

4) かんしょ種芋貯蔵調査

8日、石山貯蔵庫において、種芋貯蔵状況の調査を行いました。今年度は気象条件に加え、早堀り収穫を行う生産者が増加したことで、貯蔵中の腐敗は例年より少ない傾向が見られました。

R8産に向けて苗床管理が最も重要となるため、引き続き状況把握、啓発を行います。



(調査の様子)

5) 挿し苗育苗の生育状況確認

8日、23日、管内で大規模に挿し苗育苗に取り組む農家の生育状況確認を実施しました。

寒波に伴い生育停滞が懸念されましたが、温度管理の徹底により順調な生育が見られています。

今後は生育調査を実施し、増殖に関する情報収集を行っていきます。



(苗床の増殖状況)

6) 焼酎原料用甘藷部会実績検討会

29日、焼酎原料用甘藷部会南支部を対象に、R7年産の基腐病、茎根腐細菌病の発生状況及び対策、苗床管理等について研修会を開催しました。今後はR8産に向けて苗床管理や健全苗の確保について啓発・周知を行い、被害低減を目指します。

2 専門プロジェクトに関する普及活動

(1) 高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成

1) 令和7年度みやざきデータ駆動型農業実践研修会（第3回）が開催

14日、普及センター研修室でリモートにて室内研修、15日、都城市内2ほ場にて現地研修が開催され、室内では4名、現地では6名の生産者が参加しました。

3回目の今回は、座学ではかん水管理についての講義を受け、現地ほ場では過去2回の検討で指摘された事項の改善状況の確認を行いました。

現地コンサルを受けた2戸が、自身の体験を踏まえて他部会員に説明して下さることも多く、部会にとっても有意義な研修となっています。



(室内研修を聴講する生産者)



(講師と環境データを確認)



(土を握って水分確認)

2) 施設園芸におけるデータ活用先進地事例調査

20日、21日に、JA指導員・専技とともに、千葉県旭市の生産現場及び栃木県下野市のアグリステーション誠和を視察しました。

両視察先はいずれも「光を十分に取り込むこと」を起点として、カーテンの開閉、枝の配置や葉数管理を行い、加えて日射量に応じたCO2施用やかん水管理が実施されていました。

また、当地域でも課題となっている近年の高温対策について、遮熱材の塗布や外気導入を含めた対応事例について意見交換を行うことができました。



(ほ場での意見交換(千葉県))



(生産者との情報交換(千葉県))



(光透過率が高いハウス(栃木県))

3) きゅうり県産品点検の実施

22日、大田市場にてきゅうりの県産品点検並びに市場担当者との意見交換を行いました。

点検では、果実の重量や長さに加え、曲がり果や傷の有無などの品質や出荷箱等の調査も行いました。大半は出荷規格に適合していましたが、イボのつき具合や果色がやや黄色い個体も見受けられ、今後の課題が見つかりました。

また、市場担当者との意見交換では、出荷規格が細分化されていることで、検品作業に時間がかかることや、各規格の入荷量を事前に把握しにくく、結果として売れ残りが発生する場合があるとの指摘がありました。産地における出荷調整の効率化にも繋がる指摘であるため、県内きゅうり産地への情報共有を図っていきます。



(市場担当者とともに品質の確認)



(果幅の調査中)

4) 北諸県地域農業者研修会「データを活かした栽培管理方法を学ぶ」の実施

28日、29日に、農研機構から環境制御の専門家をお招きし、「物質生産に着目した高生産性施設栽培技術」をテーマに講演会を開催するとともに、きゅうりほ場で現地検討会を行いました。

講演では、「収量は減点方式」との考えのもと、管理上のミス（病害虫、養水分管理）を防ぐことの重要性に加え、日射量に応じたLAI（葉面積指数）調整の必要性が示されました。

現地検討会では、実際のLAI算出を行ったほか、無駄のないCO₂施用に向けて、谷換気とCO₂施用を連動させた管理手法等について助言があり、生産者との意見交換も活発に行われました。



(講演を聴講する生産者)



(講師からアドバイスを受ける生産者)

(2) 生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成

1) いちご環境制御先進事例調査の実施

7日、8日に、JAのいちご担当指導員とともにいちごにおける環境制御の先進事例調査として長崎県の取組を視察しました。

長崎県では、就農時に長崎型低コスト統合環境制御盤の導入を各種事業で支援し、また若手生産者の収量向上と定着を目指した「いちご環境生後リモート勉強会」を県の革新技術支援専門員主導で行っています。



(環境制御リモート勉強会)

視察同日、環境制御リモート勉強会の各地域における1年間の取組報告会にも参加させていただきましたが、普及指導員の資質向上活動にも繋がっていることが窺えました。

長崎県はいちご生産が盛んなため、ハウス環境制御の取組がいちごを対象品目として、また新規就農者育成と連携して進んでいました。今回の知見を今後の管内いちご栽培支援に繋げていきます。

2) JAみやざき都城地区本部いちご専門部会 新規就農者巡回の実施

16日、23日、三股支部生産者の要請に応じて新規就農者2名を巡回し、管理や生育の状況を確認しました。

1名に対しては、加温機の不調等もあり夜温を目標温度に保つことが難しいため、昼温を高め設定し、日平均気温を維持するよう助言しました。もう1名の状況は、生育は順調で、花房も十分に伸びていました。



(低温による生育速度低下)



(生育が順調な園地)

Ⅲ プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

（1）JA みやざき都城地区本部マンゴー部会の巡回活動を実施

23日、JAの果樹担当指導員とともにほ場巡回を行いました。

11月下旬頃に出蕾が始まった園地は、1月20日頃に開花を迎えていました。

12月中旬頃に出蕾が始まった園地は、12月の巡回時より全体的に出蕾率は上がりましたが、樹によって出蕾時期や進みにバラツキがあり、開花は2月下旬以降になる見込みです。



（出蕾が遅れた園地の花芽）

（2）JA みやざき都城地区本部きんかん生産部会の目揃え会の開催

16日、完熟きんかんの目揃え会が行われ、7年産の出荷基準の共有と確認が行われました。

また、解禁日前のす上がり状況と、たまたま出荷基準の達成状況を共有するため、きんかん果実分析の結果をフィードバックしました。

7年産は、6年産と比較すると玉太りも良く傷果は少ない状況でしたが、平年同時期比で果梗部の緑色の抜けやカラーチャートの進みが早く、す上がり程度と酸度は平年並みの結果でした。今後、昼間のハウス内が高温になることから、2月中旬以降の1～3番果の過熟果・うるみ果の発生に十分注意するよう、部会員に呼びかけました。



（きんかん目揃え会）

（3）北諸県女性農業者サポート協議会×食育ティーチャー合同企画「知って、語ろう北諸県の食と農」の開催

15日、畑作園芸支場において、女性農業者サポート協議会と食育ティーチャーの合同イベント「知って、語ろう地域の食と農」を開催しました。

第1部は「“さつまいも”を知ろう」と題し、さつまいもの栄養成分や品種特性などについての講演のほか、さつまいも5品種を食べ比べし、地域の特産であるさつまいもについての理解を深めました。

第2部では、「地域の食や郷土料理を次の世代に（「知って、語ろう地域の食と農」交流会）つなげていくためにできること」をテーマに、グループ毎に意見交換をしていただきました。

今回は、農産物を生産する女性農業者と、食の大事さを伝える食育ティーチャーが交流する初の試みでしたが、約40名に参加いただき、活発な意見交換がなされる有意義なイベントとなりました。



(4) 都城市特別融資制度推進会議の開催

23日、都城市特別融資制度推進会議が開催されました。今月は近代化1号資金8件、青年等就農資金1件の計9件の申請があり、書面審査の結果、すべて承認されました。

(5) 三股町青年等就農計画認定等審査会の開催

19日、三股町青年等就農計画認定等審査会が開催され、申請のあった経営開始型1件の審査が行われ、協議の結果、承認されました。